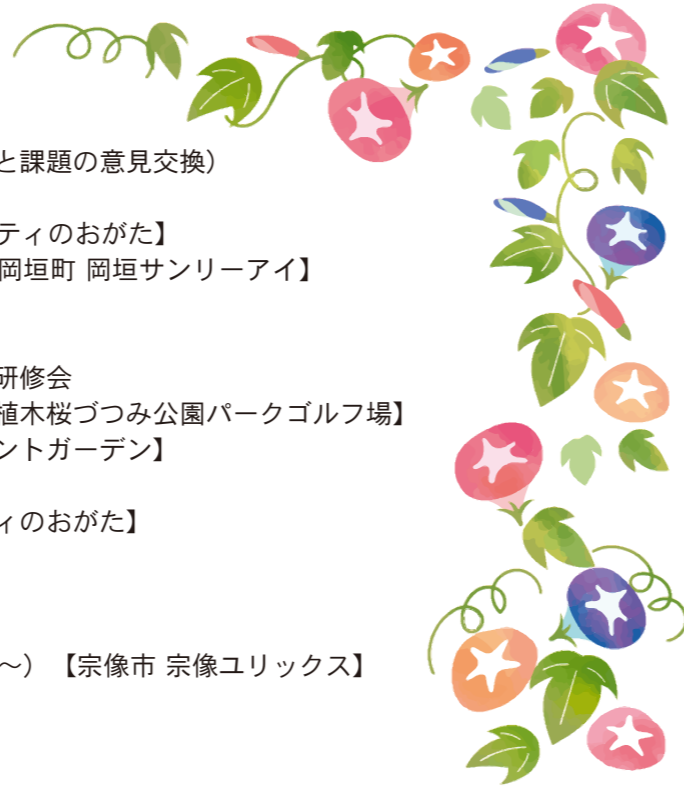


令和5年度 直方市自治区公民館連合会 事業計画

- 4月 7日(金) 正副会長会議 (14時～)
- 14日(金) 令和4年度会計監査 (11時～)
- (金) 理事会 (14時～)
- 5月 24日(水) 令和5年度 定期総会 (10時～)
- 6月 2日(金) 市長会談 (新自公連幹部の表敬訪問と課題の意見交換)
- 7月 21日(金) 拡大事務局会
- 25日(火) 同和問題講演会 (14時～) 【コミュニティのおがた】
- 8月 3日(木) 福岡県公民館大会 (12時50分～) 【岡垣町 岡垣サンリーアイ】
- 9月 8日(金) 正副会長会議 (14時～)
- 15日(金) 理事会 (14時～)
- 29日(金) 直方市環境衛生連合会との合同視察研修会
- 10月 14日(土) 第2回校区対抗パークゴルフ大会【植木桜づつみ公園パークゴルフ場】
- 11月 10日(金) まちづくり研修会【予定：エクセレントガーデン】
- 中旬 チューリップ球根植え
- 下旬 ※人権問題講演会【予定：コミュニティのおがた】
- 8日(金) 正副会長会議 (14時～)
- 12月 15日(金) 理事会 (14時～)
- 12日(金) 市長会談 (14時～)
- 1月 25日(木) 福岡県公民館実践交流会 (13時10分～) 【宗像市 宗像ユリックス】
- 2日(金) 拡大事務局会 (10時～)
- 2月 8日(金) 正副会長会議 (14時～)
- 3月 15日(金) 理事会 (14時～)
- 中旬 チューリップ除草作業



令和5年度 事業計画重点課題

1. 自公連内の連絡調整と情報交換

- 各校区の広報担当者を通じて情報共有

2. 地域活動の調査研究と実践

- 区長マニュアル、隣組長マニュアルを使用した研修会
- 加入促進推進分科会

3. 健康づくり、レクリエーション、生涯学習、青少年育成

- 地域住民の福祉の向上に向けて (早期社会福祉協議会の健全化)
- 地域福祉環・境推進分科会

4. 地域の安全・安心確立のための防災・防犯活動の推進

- 市民の安全安心に関わる取り組み (コミュニティ無線の拡大、基地の増設)
- 防災・防犯推進分科会

5. 校区活動の支援

- 地域担当職員配置に係る要望について

6. 行政との意見交換、協働体制の構築

- 「市長と市民の意見交換会」の継続
- 自公連と直方市の連携強化 (要望事項の消化が希薄)

《校区単位で実施予定の事業》

- まちづくり意見交換会 (令和5年7月～令和6年1月に全校区で実施)
- 区長マニュアル・隣組長マニュアルを使用した研修

《考えられる日程不確定な事業計画》

- 本部専門委員会
- 加入促進推進分科会
- 防災・防犯推進分科会
- 地域福祉環・境推進分科会

校区・自治区公民館からのお知らせ募集!!

あなたの地域や校区のイベントやお知らせを掲載してみませんか？
掲載スケジュールは、年3回(6月・11月・2月)です。
※申し込み/自公連本部専門委員会・事務局 (TEL070-1990-4172)



自分たちの「まち」は自分たちで守る!!

直方市自治区公民館連合会

みんなで「住んで良かったと思えるまちづくり」直方市自治区公民館連合会は”1チーム”!

発行担当：自公連本部専門委員会・事務局 (TEL070-1990-4172) / 発行協力：直方市役所 防災・地域安全課

広報 まちづくり

第7号



令和5年6月吉日 / 直方市自治区公民館連合会 発行

令和5年度 直方市自治区公民館連合会総会の報告

令和5年5月24日10時より、直方市役所8階大会議室にて『令和5年度直方市自治区公民館連合会総会』が開催されました。4年ぶりに対面式で執り行われた総会では、安田幸生副会長が司会を務め、大塚進弘市長・香原勝司県議会議長・田代文也市議会議長に来賓としてご参加いただき祝辞をいただきました。

また、総会の冒頭で新型コロナウイルス感染症等により、お亡くなりになられた方へのご冥福をお祈りし、追悼の意として黙祷を捧げさせていただきました。

なお、今総会は、参加者56名、委任状33名で自公連規約第14条の規定により総会は成立し、渋川浩理事(南校区)が議長を務められ、各議案は拍手による賛成多数ですべて承認されました。



田代英次会長



ご来賓の大塚進弘市長・香原勝司県議会議長・田代文也市議会議長



議長：渋川浩理事



新型コロナウイルス感染症等により、お亡くなりになられた方へ黙祷

感謝状贈呈

【受賞者】

- 上村 清 様 (自公連 前副会長)
- 上川 光明 様 (自公連 前副会長)
- 弘 信之 様 (中泉校区)
- 〈故人〉福井 弘男 様 (植木校区)
- 〈故人〉椿 清吉 様 (新入校区)

当自公連の活動・発展に多大な功績を収められ、地域の振興発展に、ご尽力いただきました方への表彰を行いました。



▲上村 清 様



▲上川 光明 様

令和5年6月2日、自公連は役員改選後の正副会長並びに事務局長、専門部委員長で大塚市長を表敬訪問しました

冒頭、田代会長から大塚市長へ厳しい選挙を勝利して見事当選を果たされたことをお祝いし、花束を贈呈するとともに今後も市と協働で取り組みを進めていくので連携をお願いしたいと挨拶しました。大塚市長も全力で取り組んでいくので今後も協力と支援をお願いしたいと応じました。



続いて岸田事務局長から、新しく東小校区、上頓野小校区、感田小校区の代表として副会長に就任された小林副会長と南小校区、北小校区、西小校区の代表として就任された金本副会長を紹介した後、田代会長が2期目の市政運営に関して市長の抱負を尋ねました。

大塚市長は、6月議会で2期目の所信表明を予定しているとした上で、まずは直方市を将来に誇れるまちにしなければとの思いがあるといい、具体的には県の力添えでデータセンターの計画も進めており、香原県議が県議会議長となられたことも市民にとって新しいまちづくりとなる契機を得たと考える。直方市は北九と福岡の中間で高速道路などの立地条件も良く、服部知事も本気で企業誘致に取り組まれている。令和7年度完成に向けて用地買収を進めていくとともに企業立地の後の圏域整備にも期待しているとデータセンター誘致に関しての取り組みに熱意を示されました。

また、コロナ後、飲食店では客は戻りつつあるが、遅くなるとタクシーがない状況にあり、まだまだ、影響が残っていると具体例を挙げ、経済回復の現状分析をするとともに新たな課題としては、気候変動の問題等を挙げ、今後の環境基本計画の見直しでは防災に関しても触れていく必要がある。防災、流域治水では100年、150年に1度の大雨でも耐えられるように河川改修が進められているが、温暖化に伴う降雨量の増加などで外水が増え、ポンプを止めて本川を守る協議を遠賀川流域圏で行っている。内水対策として透水性舗装や貯留管の埋設、公園や校庭を掘り下げ一時的な貯留機能を持たせることが求められており、国、県の協力を仰ぎながら取り組む必要があると防災面の強化に言及されました。

また、産業振興ビジョンに関しても観光の面では、別府市の温泉プロモーションで実績のある方に協力を

依頼している。身近なところでは植木、新入のフットパスのように地域資源を見直し、仕掛けを作るといったビジョンを持って取り組んでいきたい。街中でも「ここっちゃ」で拠点の一つを整備したので今後はまちの人たちからアドバイスを受けながら進めて行く受け皿づくりはできているとし、あわせて、まちの顔であるJR直方駅から日の出橋の街路灯が老朽化しており、所管の県と調整し街並み景観を考えながら、今後は自由通路の山部側も対象に季節ごとの景観を大切にしていきたい。五日市も担い手問題で存続の危機であったが新たな人たちで賑わいづくりに取り組んでもらえる。まちなか居住者の日用品を購入する場を確保したいと中心市街地の賑わいづくりに具体的な方向性を示されました。

さらにDXの推進で行政内部のマンパワーの合理化を図り、その分を市民サービスの向上に振り向けることが大切であり、学校においても児童生徒一人に1台の端末、各教室に電子黒板を配置したことが学力向上にどれだけ結びつけるか重要として、ITツールとして現場が使いこなすことで先生の負荷を減らしてその分を学力向上に充てるとの考えを示しました。DXに関しては、あらゆる面からあらゆる機会を提供して、いくつになっても何時でも学べる体制をつくり、市民が恩恵を体感できる取り組みにしていきたい。公共施設の老朽化の問題としては学校施設の改修は一定程度済んだが、長期的な体育施設の改修計画や美術館、図書館の雨漏り改修など課題山積であり、財政的には健全化を図りながらではあるが、将来回収できる借金なら意味があると考えるので取り組みたいと意欲を示されました。

自公連からは、多くの市民に大塚市長の思いを正しく伝え、理解を得られるように昨年実施したような意見交換会の実施を伝えたところ、市長も前回は自公連に開催していただいたが、今回は移動市長室のように各部長も同行して、ある程度の質問・提案内容に答えられるようなやり方を考えていると現状での考えを語られました。

最後に役員一同から大塚市長には今後も2期3期と頑張ってくださいとエールを送り会談を終わりました。



本部専門委員会は、社会福祉法人直方市社会福祉協議会（以下、「市社協」といいます。）の健全化を図る趣旨で、令和3年7月より正副会長並びに同社協の自公連推薦理事（3名）及び評議員（3名）の皆さんと協議を進めています。

今回は市社協健全化に係わる取り組み等につきまして、時系列でご説明いたします。

- 令和3年7月1日 市社協事務局に対して自公連推薦評議員が、「令和2年度定時評議員会終結に伴う手続きが社会福祉法に反している」と指摘。（市社協は、厚労省及び直方市に確認の後、指摘された法令違反を認めた上で諸手続きをやり直した。）
- 令和3年7月28日 自公連推薦理事は、市社協の漫然とした運営を改善する目的で、当時の市社協会長古賀章子氏に対し、市社協定款に基づき市社協内に「企画運営委員会」の設置を要望した。（古賀氏は当該要望を受託し、市社協内に企画運営委員会を設置した。同委員会は理事7名及び評議員5名で構成された。田代自公連会長が委員長に選ばれ、市社協の健全化に向けての協議が行われた。）
- 前記企画運営委員会の答申の中で、「健全が図られるまで委員会を継続する旨」が付言されていたが、古賀氏は答申を受けての理事会において、企画運営委員会の継続を可決させるべき義務を有しているにもかかわらず、事情の分からない理事に対して十分な提案説明をすることなく否決された。また、古賀氏は当該議案の提案者でもあるにもかかわらず、自らも当該議案を否決した。
- 令和3年9月24日 社会福祉法人福岡県共同募金会直方市支会（以下、「直方市支会」といいます。）の理事会において、自公連推薦の直方市支会理事（市社協内評議員兼務）は、事務局に対し、共同募金の趣旨に関する啓発や募金額の増加を目的とした提案を行った。前記理事は、赤い羽根共同募金に係わる法人募金を44万円集め直方市支会に納入した。
- 令和3年9月24日 市社協は共同募金会から募金の配分を受けた後、当該配分金は、市社協の福祉事業や市内の福祉団体等の活動助成金に充てられていることから、自公連推薦評議員は、前記活動助成金が公平且つ適正に配分されているか否か確認する目的で、市社協に対し情報開示を求めた。調査対象団体として古賀氏が会長の直方市赤十字老人看護奉仕団「胞子の会」を選んだ。

6. 令和3年12月14日 古賀氏は当該調査に必要な書面（会員名簿）の提出を拒んでいたが、その行為は関係法に照らして違法であるとの市社協事務局の指摘を受け入れ、会員名簿の開示に応じた。（会員名簿に基づき調査を行なったところ、助成金申請時は会員総数は23名としていたが、実態の会員数は10名以内で、多くが亡くなっていたり、胞子の会を退会していたことが明らかになった。なお、胞子の会へは日本赤十字社福岡県支部からも活動助成金が交付されていた。）

7. 令和3年12月18日 自公連推薦の理事全員が欠席した理事会において、突然、古賀会長が理事職を辞任することを申し述べ、後任の市社協会長に一尾泰嗣理事を推薦した結果、一尾理事が市社協会長に選ばれた。なお、一尾理事は理事経験半年であった。

8. 令和4年6月9日 自公連は市社協一尾会長に対して、「連携協議申入書」を提出したが、市社協事務局から電話で、「一尾会長は、どのような理由でも団体との協議は行わない。意見があるのなら理事会で意見を述べて欲しい。」と回答された。自公連は市社協と連携するべく協議を申し入れたが、荒唐無稽の事由で拒絶された訳である。

9. 令和4年7月20日 同年同月15日開催の自公連臨時理事会の決議に基づき、自公連は、募金活動に関する問題点（募金活動はあくまでも任意であり、強制的に募金を集めることは法令違反であること等）を指摘した書面を市社協等に提出した。

10. 共同募金は直方市支会が行う業務で、市社協は募金活動協力団体並びに募金の受益者であり、募金を集める団体ではない。同じく、自公連も募金活動に協力している団体の一部に過ぎない。自公連が募金活動に消極的である為、市社協の福祉事業に影響がでているとの市社協の主張は失当であるといわざるをえない。なお、直方市支会の理事会においては、自公連を批判する発言等は皆無である。任意性が求められる募金活動に積極的に協力するか否かは、個々の団体（自治区公民館）の自律権の範疇であり、強制的に募金活動に協力させる行為は、団体の自律権を侵害するものであり厳に慎むべきである。



